

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [生涯学習](#) | [歴史雑学](#) 5. 武士の給料はなぜお米だったのか？
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

歴史雑学 5. 武士の給料はなぜお米だったのか？

「何人扶持」とか「何万石」というように、昔の武士の給料は、米の量を基準として支払われていました。ちゃんと通貨があり、しかもそれをりっぱに通用させながら、給料を食物の量に換算して支払った国は、世界広しといえども日本ぐらいのものでしょう。

江戸時代には、二合五勺舂というが使われました。これは一日二食時代の大人一食分の基準、つまり平均胃袋の大きさです。ですから、たとえば二人扶持といえ、一日五合の二倍、つまり一升の米を一日分という計算で支払われたのです。なぜ米で支払われたかは、日本の唯一最大の生産物が米であり、しかもそれが主食として大きな位置を占めていたことがあげられます。米の生産が国力のパロメーターだったのです。狭い国土で勢力争いを続けていた武士たちにとって、最も魅力ある、しかも力を即評価される価値基準が米だったのです。

米の出来高がその土地の領主の力を示し、そこに仕える者たちのものさしにもなっていたのです。こんなわけで、米の量を基準にして武士のランクが決まっていたのですが、人間の胃袋のサイズを尺度にして給料の価値を決めていた国などそうないでしょう。

この米の石高制のルールは飛鳥時代に求められます。この時代の人間の給料や報酬は「稲何束」というような、脱穀していない米が支払われていたのです。

※ 1升 (約1.8ℓ) = 10合 = 100勺

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

📄 サイトマップ 📄 このサイトについて 📄 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.